



「今までで 一番良い成績を 狙う」 オリンピックへの 抱負を語る 矢澤一輝君

アジアの有力選手30名で競われたカヌー・スラロームアジア選手権大会タイ。その優勝者のみに与えられる北京への切符を手に入れたカヌー部の矢澤一輝君(メディア情報学科2年 私立東野高校出身)が帰国した。念願のオリンピック出場を決めた矢澤君に話を聞いた。

—現在の気持ち—

素直に嬉しいですね。オリンピックでは参加するだけではなくて、成績を残したい。メダルの近くにいきたいです。

—どんな気持ちでアジア選手権に臨んだ—
行くからには絶対優勝するつもりでした。

—大会の行われたタイのコースは—
前半は少し流れがありますが、後半は殆ど流れません。自分としては、やりにくいコースでした。

—試合が行われたのはバンコクより北東に100km程離れたナコンナヨック。現地の気温は35℃以上で、蒸し暑く、体調管理が難しい。食事にも合わず、他の日本人選手の中には寝込んで、全く練習できない選手もいた。そんな中、矢澤君はモチベーションを保ち、体調を維持することに努めた。

—予選4位↓準決勝4位↓決勝1位の逆転勝利—
この中で予選は独立して



金谷徹君(左)、藤野コーチ(右)と健闘を称えあう

■バルセロナ・アトランタオリンピック出場経験もある、本学カヌー部の藤野強コーチは、「決勝は準決勝の結果、下位順のスタートだった。準決勝4位の矢澤君は決勝で自分の後に3人の選手を残していた。これは、相当なプレッシャーになったと思う」と語る。

—決勝が終わって—

公式記録が出るまで時間がかかりました。ミスはしていませんでしたが、自分のタイムが分らなかったで、優勝が確定するまで不安でした。

—優勝が決まった瞬間の周りの反応—
(共にアジア選手権に出場した本学の金谷徹君経済学科4年 神戸市立萱合高校出身)から、「良かったな。頑張ってきた」と言われました。また、ベテランの安藤太郎選手(青梅市カヌー協会所属)からは、「K-1は海外でも一番層が厚い。皆の分も頑張ってきた」と言われました。

(2面に続く)

今大会の矢澤君の準決勝の成績は、タイムは最速だがベナルティがあり、105ptの4位。これを決勝では1秒縮めた上にノミスの102ptで、逆転優勝を決めた。



成田学長に五輪出場を報告

千変万化

食の安全・安心が重視されています。問題が起きた組織の謝罪会見では必ず風通しが悪い組織だったと釈明がされます。では、風通しが良い組織とは、どのような組織でしょうか。それは対人関係のオープンなコミュニケーションから始まりますが、中でも重要なのは相手の話しに耳を傾けることです。▼相手のいうことに一生懸命耳を傾ける姿勢は、相手にも自分の事をよく聞いていただいていいるということが伝わります。▼その結果、相手をリラックスさせ温かい雰囲気をつつみこむこともでき、相手から信頼されることとなります。▼松下電器の創設者である松下幸之助氏は経営のコツについて、「まず、人の話をよく聞くことである」と語り、「創業まもなくのころ、毎年暮れになると3人の従業員に帳簿を見せ、これだけの利益が今年稼いだ。来年はこの金で何をどうするかと聞くのが習慣であった」と言っていました。▼従業員の意見や考え方をしっかりと聞き、翌年の経営に反映させるといふ、コミュニケーションの鉄則を実践していたのです。▼経営の神様といわれた松下幸之助氏からの言葉からも、いつの時代においても、組織の長は部下の声を傾けることが大事であるということが、よくわかります。(経済学部教授・水尾順一)